



へき地・小規模校教育研究センター 教育・研究・研修の役割

へき地校体験実習指導と担い手育成

へき地校体験実習を通じて実践的指導を施し、未来のへき地教育の担い手を育成しています。教職を目指す学生たちはへき地校の個に応じたきめ細かな指導や、子供同士が協働的に教え合う「間接指導」、ICT遠隔教育等の自立型教育活動など、“令和の日本型学校教育”の新しいあり方を学んでいます。



少人数の子供との密接な触れ合いと学校活動支援

へき地校の運動会・学芸会・学校祭等の行事・学習支援活動を通じて、学生と子供との密接な触れ合い体験を促進しています。へき地・小規模校の活動の中で、教師として子供に関わる上での適切な対応方法や教育的愛情等の“教育の原点”を考える機会を提供しています。



へき地教育推進フォーラムの開催と研究成果の発表

全国の大学や教育行政及び、学校教育界や全国へき地教育研究連盟等と連携してへき地教育推進フォーラムを開催しています。フォーラムには毎年多くの研究者・教員が参加し、へき地・小規模校教育の先端的な研究成果の発表や実践的活動報告、会員間の交流を活発に進めています。



全国大学間のへき地教育研究・実習の交流と実践認識の共有化

「日本教育大学協会へき地・小規模校教育部門」では全国大学間のへき地教育研究交流を進めています。また全国の学生間でへき地校体験実習の交流会等を開催し、学生間で実践認識を共有しています。学生の経験交流により、少人数学級指導、授業づくり、地域連携等の様々な指導力の向上と、学生の教職志望動機を高めています。



へき地教育研修・講座の開設とオンデマンドニーズへの対応

北海道教育大学と北海道立教育研究所は、へき地教育研修講座を協働で開設しています。また、へき地校教員が研修活動に参加し易くするためにオンデマンド研修講座を別途開設し、遠隔地からでも視聴できるようにしています。教員・管理職が研修講座の成果を学校で共有することで、へき地校の教育実践開発に活かしてもらっています。



全国へき地教育研究連盟との相互協力と全国的活動の発展

北海道教育大学は、全国のへき地・小規模校教育に関する諸課題に適確に対応することを目的として、全国へき地教育研究連盟との相互協力協定を締結しました。これにより、全国の大学と全国の学校の実践研究成果を共有し、全国のへき地教育研究の発展に繋がっています。



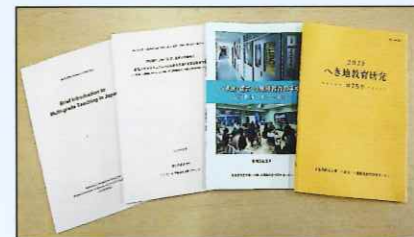
全国のへき地・小規模校の調査研究と成果普及

全国的な学校規模の縮小化は教育界の大きな課題であり、過疎地域・へき地校では、ICT活用による個別最適化教育、遠隔双方向教育や地域探究活動等の様々な取組が進められています。この全国の実践を現地調査し、その成果を活かして研修活動を普及することで、活力ある学校教育の推進に繋がっています。



研修資料の開発や研究紀要の発行

北海道教育委員会等と連携しへき地・小規模校教育に関する研修資料や手引、研究書を開発・発行しています。また、戦後以来毎年、研究紀要『へき地教育研究』を刊行しており、全国の研究者・教育者が投稿しています。これらは、へき地・小規模校教育の専門誌として定評があり、各学校や関係機関で活用されています。



国際的なへき地教育の交流とSDGs

日本のへき地教育研究は、間接指導やリーダー学習等、指導方法が確立されており、国際的な水準が高いと評価されています。そのため、国際社会貢献とSDGsの推進のために、国際的なへき地教育研修指導や学生との交流を実施しており、好評を得ています。

